2020年度

IISIA / RIJAG
社会貢献事業報告書

IISIA / RIJAG　FY2020
Social Contribution Project (CSR) Report

IISIA 株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.

RIJAG Research Institute for Japan's Globalization
一般社団法人 日本グローバル化研究機構

CONTENTS

2　IISIA・RIJAG、代表取締役 CEO・代表理事 原田武夫の紹介
4　IISIAの社会貢献活動が目指すもの
5　世界に認められるシンクタンク
6　我が国トップレヴェルの大学におけるリーダー教育
　講義テーマ・図書一覧
8　東大ゼミ生インタビュー
10　IISIAプレップ・スクールOB生インタビュー
12　海外の名門大学との協力協定
13　グローバル社会に向けた発信
14　世界初・情報リテラシー図書館
15　ご支援のお願い（日本語・英語）
16　Towards a Commonn Future
18　Company overview ◆ 企業・代表・理念紹介（英語）
19　Initiatives ◆ 各取り組み概要（英語）



IISIA会社概要

商　　号：株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
英語表記：Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.（略称IISIA）
代表取締役（CEO）：原田武夫
設立登記：2007年4月2日
事業内容：国内外情勢に関する調査研究及び教育活動並びに経営コンサルティング業
資 本 金：3,000,000 円（2019 年 1 月現在）
本社所在地：〒100-0005　東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング3F
U R L　：https:// haradatakeo.com/

RIJAG会社概要

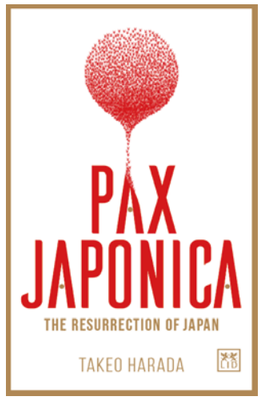
法 人 名：一般社団法人日本グローバル化研究機構
　　Research Institute for Japan's Globalization（RIJAG）
設立登記：2011 年 9 月 29 日
所 在 地：〒100-0005　東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング3F

代表取締役CEO・代表理事　原田武夫



元キャリア外交官（元アジア大洋州局北東アジア課北朝鮮班長。2005年自主退職）。株式会社原田武夫国際戦略情報研究所（IISIA）代表取締役（CEO）。一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG）代表理事。
情報リテラシーの研究開発・教育を多方面にて展開。講演・執筆活動、企業研修などに於いて国内外で活躍。2017年より国際商業会議所（ICC）G20 CEO Advisory Group のメンバーを務める。毎日発信する調査分析レポートは 2015 年 7 月よりトムソン・ロイターでも配信されている。

IISIAの社会貢献活動が目指すもの



少子高齢化、社会保障の圧迫、地方の過疎化、原発問題、諸外国との関係
世界でも実は課題先進国である我が国日本が窮地に陥る時、底から
どのように這い上がってゆくのか、その過程から得るロールモデルを
同じ課題に直面する他国勢に対し提供してゆくことで、我が国を
中心として平和と発展を国際社会にもたらしてゆく世界。

IISIA・RIJAGの社会貢献事業はPAX JAPONICAを
リードするグローバル人財の育成に取り組んでいます。

PAX JAPONICA

1 情報リテラシー教育の普及

世の中に溢れている公開情報から本質＝「インテリジェンス」を読み取り、適切なアウトプットに繋げる力、すなわち情報リテラシーを未来ある若者が身に着けてゆくことで、これから我が国に訪れる苦境の時代を切り開いてゆけるような教育を展開しています。

2 国際社会でのプレゼンスの確立

2045年に向けた「UN75」への参画としてSDGs（教育・経済・平和）へのコミットメント、海外の大学およびシンクタンクとの連携、権威ある国際会議での発言機会を拡大してゆきます。

世界に認められるシンクタンク

世界最大のシンクタンク評価機関である、米ペンシルヴァニア大学
ローダー・インスティチュートが発行する
「Global Go to Index Think Tank Report」において
「Think Tank to Watch / 注目すべきシンクタンク」ランキングで
31/109位に輩出されました！

当ランキングに選出されたシンクタンクは日本ではIISIAのみとなります。



「Global Go to Index Think Tank Report」

説明文抜粋（仮訳）：

「当カテゴリーに載っているシンクタンクは過去２年間の素晴らしい研究と革新的な取り組みにおいて名誉あるシンクタンクとして認められる」

（原文）Think tanks in this category are honored for their excellent research and innovative advances within the past 24 months.

ペンシルヴァニア大学



アメリカ合衆国のペンシルヴァニア州、フィラデルフィアに所在し、米国屈指の名門私立大学連合であるアイヴィー・リーグの１校として世界を代表する名門大学。全米で４番目に古い大学とされ、学部と大学院を兼ね備えた全米初の大学でもある。全米最古のビジネス・スクールであるウォートン・スクールMBAはハーヴァードMBAと並び全米ランキング同率１位を誇る。卒業生にはノーベル賞受賞者28人、米国45代目大統領のドナルド・トランプ等がいる。

我が国トップレヴェルの大学における教育

東京大学教養学部・自治会公認ゼミ （春セメ火曜４限・秋セメ火曜５限）

「未来シナリオとリーダーシップ ～国内外情勢とイノヴェーション」



不確実性とヴォラティリティーが増す世界の中でどの様に
人生を切り開き、組織をリードし、国内外を刷新して行くべきか。
情報リテラシーと未来シナリオを学び、あるべき
リーダーシップを体得するための講義を展開しました。

情報リテラシーとは？

Open Source Intelligence（OSINT）＝公開情報から
得られる情報の意味を読み取り、
Scenario Planningで未来を導き出す力

IISIAの会員様には会員制サーヴィスを通じて日々情報リテラシーを
高めていただき、学生には同じ内容を無償で提供しています。

IISIAプレップ・スクール

現在のIISIA / RIJAGの情報リテラシー教育の基盤を築いたIISIAプレップ・スクール。東京大学をはじめ国際基督教大学（ICU）、名古屋大学等、日本全国で展開して参りました。 卒業生は官公庁、金融、コンサルティング等、様々な業界で大活躍しており、IISIA/RIJAGは卒業生同士のネットワーキングの一助を行うことで国内外のリーダーの輪を拡大させております。※10-11pのOB生インタビューをご一読ください！

課題図書一覧

一部抜粋（2020年度自主ゼミ）

藤井 義彦	『巨大企業危機』	さくら舎
リサ・ランドール	『ワープする宇宙』	NHK出版
岩間 浩	『ユネスコ創設の源流を訪ねて』	学苑社
原田 武夫	『世界のエリートはなぜ、この「フレームワーク」を使うのか』	かんき出版
河内 春人	『倭の五王』	中公新書
今谷 明	『室町の王権』	中公新書
ジャウォスキー	『シンクロニシティ』	英治出版
大貫 隆	『グノーシス　陰の精神史』	岩波書店
井筒 俊彦	『意識と本質』	岩波文庫
高橋 和夫	『イランとアメリカ』	アサヒ新書
Stephen Birmingham	『The Grandees：America's Sephardic Elite』	
島田 謹二	『ロシヤにおける広瀬 武夫』	朝日選書
ションバーガー	『ジャパニーズ・コネクションー 海運王K・スガハラ外伝』	文藝春秋
野田 智義	『リーダーシップの旅　見えないものを見る』	光文社新書
村井 啓一	『創発（はぐれ）人材を さがせーイノベーションを興す』	日本経済新聞出版
磯崎 哲也	『起業のファイナンス』	日本実業之出版社
チャルディーニ	『影響力の武器[第三版]：なぜ、人は動かされるのか』	誠信書房
Mark Lowenthal	『Intelligence：From Secrets to Policy』	
Peter Schwartz	『The Art of the Long View：Planning for the Future in an Uncertain World』	
原田 武夫	『「日本封じ込め」の時代』	PHP新書
三宅 孝之 他	『3000億円の事業を生 み出す「ビジネスプロデュース」戦略 なぜ、御社の新規事業 は大きくならないのか？』	PHP出版

東京大学文科一類２年（法学部内定）

山本　つかさ

将来の希望職業 ○ 外交官

東大ゼミ生4名
インタビュー



■ 参加に至った背景

もともと高校一年時に留学して以来外交官という職業に
憧れて東大法学部に入学するに至ったので、原田先生が
元キャリア外交官であることに一番惹かれて参加を決めました。
また、ゼミを通じて自分の進路を明確にしたいという思いがありました。

■ 学んだこと

ゼミを通じて、日々私たちが目にしている世界が一枚岩ではなく、背後に複雑な構造や思惑が存在することを痛感しました。中でも印象的だったのは、出来事そのものではなくそれによって利益を得るのは誰か、何かを考える、というマインドセットでした。情報に触れる際、クリティカルシンキングが必要、とは昨今よく言われることですが、それだけでは飽き足らず、行間を読む能力の需要性を知りました。同時に、この能力を高めるには日々の知識のアップデートが不可欠であるように思われます。

■ 学んだことを今後どう生かしてゆきたいか

将来どのような地位に就いたとしても、先見の明を持って未来を予測し社会の変化に対応していく能力は重要です。私はゼミで学んだ、物事の背景で利益を得るものを考える、というマインドセットを活かしつつ、自身で己の知識や情報のアップデートを怠らないように日々進化し続けたいと思います。ゼミで学んだインテリジェンスの世界に入り、学んだことを実際に生で感じたいと考えています。

東京大学文科一類２年

久保田　拓宏

将来の希望職業 ○ 財務省・外務省



■ 参加に至った背景

サークル同期に誘われ、リーダーシップをどのようにとっていくのか、インターネット上の公開情報からどのように世界を分析するのか、外務省での仕事はどのようなものなのかという点に興味を持ち、参加しました。

■ 学んだこと

日本・アメリカを中心に全世界の歴史を、新たな視点から読み解くことで、歴史をただ単なる過去の出来事ではなく、「温故知新」という諺にあるように、新たな知見を深め、今生きていく糧にすること、さらには未来をどう生きていくかの判断基準にすることを学びました。まさに、E.H.カーが『歴史とは何か』で述べた「歴史とは現在と過去との絶え間ない対話である」というフレーズを、原田先生の情報リテラシーのスキームに合わせて体得できたのではないかと思います。

■ 学んだことを今後どう生かしてゆきたいか

新たな知見を得るには、教科書より深い理解と考察が必要であり、受動的に学んでいては、「温故知新」は達成できないと思います。 そのため、歴史に対する批判の視点を持ち、主体的に更なる研究を進めていきたいと思っています。並行して、授業でも行っていたように、公開報道から気づきを得て、未来シナリオを予測するという経験を意識的に積むことによって、より精度を高め、あらゆるリスクに対応できる能力を体得していきたいと考えています。

東京大学教養学部２年（法学部進学予定）

童　非

将来の希望職業 ○ 国際公務員、国際法学者



■ 参加に至った背景

前年（2019年）５月から士業関連情報サイトを運営する企業で長期インターンをしていたところ、同年10月より国際的な要素が入った仕事をしてみたいと思い始め、大学の掲示板からIISIAを発見し、そこからまたこの自主ゼミを知りました。インターンでは社会貢献事業にも携わっていたので、当時授業に参加する前に、新歓活動の運営にも手伝っていました。

■ 学んだこと

１回目の授業から、これまで主に中国で受けてきた義務教育で築かれた全ての世界観を崩させる勢いで、「宇宙の外側」まで至る大きなスパンで物事を分析していく原田先生の広い知見に圧倒される中、自分も少しでも議論ができるように、これまで分厚く難解で読む気がしなかった物理学、哲学、心理学または宗教学の本を、好奇心を駆使しながら読み進め、そこで速読しアウトプットすることが出来るように体質変換の第一歩ができたことや、ニュースを読むときには書き手の論理に流されずに常に世界秩序の枠組みがあることをまず認識してそこから発想を巡らせるようになれたことが、私にとってありがたい学びでした。

■ 学んだことを今後どう生かしてゆきたいか

原田先生が教えてくださった枠組みをこれからの様々な経験を持ってより深く理解して、その視点を忘れずに、世界の平和に貢献できるような人になりたいです。 具体的には、自分が持つ Third Culture Kid というアイデンティティー、又、中国と日本に置いて築いた知識と経験をバックグラウンドに、世界の隅々に住む人々が平和な毎日を過ごせるようになるにはどうすればいいのかを常に考えながら、行動を持って、少しでもインパクトを持たせれるようなことをしていきたいと考えています。

前期教養学部文科二類１年

豊嶋　俊介

将来の希望職業 ○ コンサルタント



■ 参加に至った背景

未来シナリオを作成するというプロセスおよびリーダーシップをいかに発揮していくかということに興味があり、かつ少人数でのゼミ形式の授業で深い議論をしてみたいと思いました。

■ 学んだこと

公開報道を分析し今後の展開を予想していく課題を通して、未来を予測するうえで多面的な要素に目を向ける姿勢が培われました。最初のころは各国の政治・経済状況といった一面的な情報から分析することが多かったのですが、後半に向かうにつれて歴史・文化・宗教など複数の要素をもとに将来を予測する意識が身についたように感じます。

■ 学んだことを今後どう生かしてゆきたいか

報道分析を通して将来を予測するうえで複数の要素を吟味する姿勢は身についたものの、まだまだ各要素について知識が不足しているように感じます。しかし一方でこの報道分析の方法自体は有用だと思うので、ほかの分野にもこの方法を応用しつつ、不足している知識を獲得していけたらと思います。



IISIAプレップ・スクールの過去のOB生は多業界で大活躍しています！

IISIA プレップ・スクール生期間　2005年－2007年

加藤 道子

2007年にモルガン・スタンレー証券に入社し、M&Aや資本調達を担当。その後、世界銀行グループIFCや
PEファンドで投資や投資先の事業成長支援を担当。2018年人工知能の社会実装を手がけるABEJA入社、取締役CFOを務める。
Harvard Business School にてMBA取得。現在は Woven Capital Principal、エキサイトHD社外取締役。

■ IISIA プレップ・スクール参加に至った背景

当時はIISIAの前身となる「寺子屋」という自主ゼミ形式だったのですが、私 が通っていた国際基督教大学（ICU）の寮まで原田先生がお越し下さって6-7名くらいで1-2時間程講 義や各自の発表、ディスカッションをするという内容でした。官僚やジャーナリストを志す学生と一緒 にゼミ開催をさせていただきましたが、大学の中だけで中々体感できないアカデミアの枠を超える、原田先生が外交の現場でプラクティショナーとして経験されてきた視点を直接伺えることが大変 魅力的で毎月わくわくする講義でした。ICUでもLiberal ArtsやCritical Thinking は多く扱われていましたが、外交やマーケットのリアルについて学ばせていただいたと思っています。

■ IISIAプレップ・スクールで学んだこと、その後のキャリアで生きていること

「寺子屋」が実施されていた時代は丁度ブッシュ政権下で金融が世界政治のドライバーになっていくような、金融資本主義が世界中で台頭していた時 でした。日本でも「金融リテラシー」という言葉が社会的現象となっていて、国際政治や株式市場からの視点をもとに自分はどう考えるか？という姿勢は、当時はもちろんその後 自分のキャリアにも生きていると感じます。ビジネス・リーダーや投資家は「判断すること」が仕事であり、「情報リテラシー」をもとに考え自 分の意見を持つことの重要性を今でも毎日実感します。

■ 今はどんなお仕事を？

今月トヨタが新設したベンチャーキャピタルに1号メンバーとして参画しまして、モビリティやスマートシティ関連のベンチャー投資をグローバルに行っていく予定です。私は世の中を変えてゆくこと「ソーシャルグッド」と資金を調達してリターンを出す「ビジネス」の共存を追求してキャリアを歩んできており、モビリティはここから数年で大きく変わる分野であり、日本の強みが生かせることであると考えています。日本の産業がハードウェアに縛られて共に衰退してゆくのでなく、ソフトウェア産業とリンクさせ、産業構造を変えてゆく仕事に携われたらと考えています。

■ 未来のIISIAの学生に伝えたいこと

現代はデータの時代であり、今後情報はどんどん増え続けていきます。だからこそ、その山積みの中からコアとなるものを選び取り紡いでゆく力である「情報リテラシー」を身に着け、永続的に鍛えてゆくことはどんな職業であっても必要です。学生の内からニュースを多角的に解釈するトレーニングを行い、ぜひ世界の動きを感じ取る目を養ってほしいと思います。最後に、社会は思った以上のスピードで変わっていきます。なので、その時世において「良いとされているもの」は一過性のものであるかもしれません。ですが、自分が好きなこと・得意なことは極端に変わることはありません。 私の場合、学生時代に「日米学生会議」に没頭して、チームで新しいものを作っていくこと、人に影響を与えるきっかけを作る楽しさを知り、それが仕事に対するモチベーションの源泉にあります。学生の内に「没頭できるもの」を見つけ、自分の人生を決めていってほしいと思います。

外資BIGファーム出身者が2000年に立ち上げた少数精鋭の経営コンサルティングファームに2012年入社。
現在のベンチャー創業と合わせ、約10年にわたり戦略コンサルタントとして国内外の小売業、消費財メーカー、
商社の全社戦略立案、合弁会社・新規事業立上げ、マーケティング戦略、ITビジネス立案に従事。
社外ではToastmasters International（米国パブリックスピーキングNPO143カ国・会員35万人）の日本代表を務めています。

IISIA プレップ・スクール生期間　2011年

大橋 祐介



■ IISIA プレップ・スクール参加に至った背景

大学時代は自らのコミットメントや提言を通じて影響力を高め、よりよい社会や成長に貢献することを追い求めていました。雛型・テンプレートが存在しない複雑な課題解決が多くなってきたのを感じていた中で、社会を背負うリーダーの目線であるべき姿（思考や視座）を力強く伝えてくださった原田先生のお話を聞いて、（知識やスキルといった表面的なものに留まらず）マインドセットや物事の考え方まで大きくインパクトを受け、外交の最前線や経営者の立場で語られる視点や切り口に触れて、講義に毎回ワクワクしていたのを強く覚えています。

■ IISIA プレップ・スクールで学んだこと、その後のキャリアで生きていること

金融リテラシー、情報リテラシーを学んだことで「自分で思考して、自分で未来を作る」ためにはどうするかを強く考えることができたと思います。うわべだけで語ることのできない、本当に社会や世界の課題解決に向き合うためにはどうあるべきかのロールモデルを得ることができたのは本当にキャリア全体を見ても大きいと感じています。スキルや思考面だけなく、マインドも磨かれて実直に動いていったことが現在の成果に繋がっていると感じます。（強烈な向上心・裏表のない思考や行動・多様な人材を統率する力となりますが、これは大きな組織をリードするうえでも非常に重要だと感じます）

■ 今はどんな お仕事を？

時価総額Top 30上場企業、時価総額1,000億円規模のメガベンチャー、そして今後の日本に大きく貢献するIISIAさんの「未来を作る」支援をしています。イノベーションや新たな事業への戦略として、合弁会社設立・戦略立案のプ ロジェクトが増えてきました。両社シナジー創出による投資対効果の最大化・オペレーション改善策（売上/利益向上・コスト削減）、経営ジャッジの引き出し、新会社としてのインプリメンテーション（経営機能・事業立ち上げ）等のテーマを扱っています。

■ 未来のIISIAの学生に伝えたいこと

高みにチャレンジして大きな成果・インパクトを作れることを目指してください。ひたむきな努力と、プロアクティブなマインド（難易度の高い仕事に自らを好んで、さらに成長曲線を上方に修正する）が何よりも大切だと感じます。チャレンジを続けていくには学生のうちに原田先生、IISIAの皆さんから良い刺激を受けてください。「ゴールを正しく見極め、世界を正しく・俯瞰的に・多角的に見つめ、自分の頭で考える」本質を学ぶことができるでしょうし、大 学では出会えないような「尖がった魅力的な」人たちに会えるでしょうし、間違いなく自分を高められると思います。そうすれば、間違いなく皆さんが周りに良い影響を与えられるリーダーになれると確信しています。

海外の名門大学との教育協力協定

IISIA・RIJAGは情報リテラシーを身に着けたグローバル人財育成にまつわる教育活動を海外でも展開しています。2020年度はロシアおよびヴェトナムの名門と呼ばれる大学との2019年度の教育協定を更新し、2回目のプログラムを実施することとなりました。各大学と4-6カ月に及ぶ期間に渡り、オンラインでの情報リテラシーコース、現地選考会、日本でのインターンシップを実施します。

提携校

ロシア・サンクトペテルブルグ国立経済大学
（Saint-Petersburg State University of Economics：UNECON）

ロシア・サンクトペテルブルクにある公立の大学。モスクワ大学と並ぶロシアの名門大学であり、帝政ロシア、ソ連時代を通じて、ロシアの教育、文化面で多大な役割を果たした。
UNECONはサンクトペテルブルク国立経済・財務大学、サンクトペテルブルク・サービス業務・経済大学、サンクトペテルブルク工学・経済大学が2012年に合併して成立した。





ヴェトナム・フルブライト大学
（Fulbright School of Public Policy and Management（FSPPM））

米ハーヴァード大学の「ヴェトナムプログラム」により100％外資で2016年に設立され、2012年の大学教育法で認められた非営利私立大学モデルの初の適用例となった。
米国国際開発庁（USAID）が720万USD（約7億8500万円）、米国務省教育文化局が830万USD（約9億0500万円）で、合わせて1550万USD（約16億9000万円）の資金を供与。





グローバル社会に向けた発信

2020年度国連が主催したUN75キャンペーンに則りIISIA/RIJAGも会員様とのUN75セミナーを実施しました。

UN75とは

2020年は国連創設75周年です。国連はこの年を記念して、世界の人々に対し、未来に関する対話（global conversation）を促しています。
（国連連合広報センターサイト抜粋）

世界では100か国近くの1000を超える団体が、当対話を実現しました。

UN75オンラインディスカッション・セミナー with 原田武夫

日　　程：2020年8月29日（土）
対 象 者：IISIA会員様（約20名が参加）
実施形式：新型コロナウィルスの影響によりオンライン。
弊研究所および会員様の議論内容は英訳し国連へ提出しました。国家の枠組みを超えた世界統治・国際連帯税の必要性を強く訴えました。



対話内容（プレゼン添付）

国連が推奨する議題をテーマにし、25年後の世界がどうなってゆくのか、どうあるべきか、その時の日本・国連はどんな役割を担っていくのか、活発な議論を行いました。

世界初！ 情報リテラシー図書館



IISIA / RIJAGが情報リテラシー研究に用いてきた
図書約2500冊を会員様限定で一挙公開！

全図書のタイトルを格納した図書検索システム「LibFinder」の導入により世界のどこにいても弊研究所の図書検索が可能に！
図書選定のご参考にしていただけます。

IISIAライブラリー

丸の内オフィスの会員制サロン「Stufen」を閉架式図書館として会員様に開放しております。会員様はStufenにて自由に弊研究所の図書の貸し出し・読書を満喫いただくことができ、お知り合いをお連れ頂くことも可能です。



互いの情報リテラシーを高め合い、
“本質で繋がる共同体（ゲマインシャフト）”の
和を広めてゆきます。

ご支援のお願い（日本語・英語）

IISIA/RIJAGが展開しております社会貢献活動にご賛同いただき、個別のご支援（寄付）をご検討いただけます場合、下記アドレスまでご連絡くださいますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

▶▶▶ giu@haradatakeo.com

また、IISIAの「会員制サーヴィス原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50％はこれらの社会貢献活動の実施・拡大に使われております。会員になっていただくことで、社会貢献活動に参画いただくことが可能です。

弊研究所は年に2度アップデートされる「予測分析シナリオ」を通じて向こう半年の期間我が国を取り巻く社会情勢について代表・原田武夫が書き下ろしており、日々の調査分析レポートでその展開を解説しております。我が国をリードする立場にあられる多くの会員様の和にぜひあなたもご参加ください。お問合せは下記アドレスまでご連絡くださいますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

▶▶▶ support@haradatakeo.com

To those who empathize with IISIA`s social contribution activities, we ask you to consider individual financial support. If you are willing to contribute to such activities introduced in this handbook, please send us a message to the following e-mail address.
The person in charge will respond to you as soon as possible to assist you with the next steps.

▶▶▶ giu@haradatakeo.com

Towards our Common Future

Future-Oriented Think Tank

「Global Go to Index Think Tank Report」



Ranked **31** / 109 by Lauder Institute (the University of Pennsylvania) for our "excellent research and innovative advances within 24 months"

Voice of Japan and Beyond

Leadership education in Japan and worldwide





Information Liter acy = Analysis of Open Source Intelligence (OSINT) + Scena rio Planning

Commitment to the Better World

4 QUALITY EDUCATION — Quality Education

8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH — Economic Prosperity

16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS — Peace and Social Development

UN75

Giving the People Hope and Future

RIJAG Research Institute for Japan's Globalization 一般社団法人 日本グローバル化研究機構

RIJAG

IISIA 株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.

IISIA

Profile & Social Contribution Achievements FY 2020

Company Profile

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.（IISIA）

Founding Year：April 2, 2007

Description of Business：

Research of domestic and international affairs; Educational activities; Business consulting

Research Institute for Japan's Globalization（RIJAG）

Founding Year：September 29, 2011

IISIA CEO & Representative,RIJAG President：

Takeo Harada

Headquarter Address：(post-code 100-0005)

Yusen Building 3F, 2-3-2, Marunouchi, Chiyoda, Tokyo



CEO & Representative, President, Takeo HARADA



Former career diplomat (Asian and Oceanian Affairs Bureau, Northeast Asia Division, North Korea Team leader; voluntarily retired in 2005) Since the founding of the organizations, he has devoted to expanding "Information Literacy" research and education in various fields including seminars, writings, and lectures in Japan and abroad. He gained membership to the G20 CEO Advisory Group for International Chamber of Commerce (ICC) since 2017. He and the IISIA`s research department publish research analysis report every day, which is published on Thomson Reuters since July, 2015.

PAX JAPONICA

The world in which Japan plays a central role in promoting peace and development to global society through providing the role model for solving Japan`s serious social problems – declining birth rate, aging population, loss of social insurance, depopulation of local cities, the nuclear power plant, and diplomatic issues … - to other countries that are bound to face the same issues in the coming decades to come. IISIA・RIJAG is highly engaged in raising global talents that will lead PAX JAPONICA through "Information Literacy" education and commitment to UN SDGs (Peace, Education, and Economics).



1 Globally-recognized Think Tank

IISIA was selected the" Think Tank to Watch," 31rd out of 109 think tanks in the "Global Go to Index Report 2020," published by the Lauder Institute hosted by the University of Pennsylvania in the United States - the largest think tank evaluator globally.
IISIA was the only think tank in Japan included in this particular ranking.



the University of Pennsylvania

2 Leadership Education in Japan`s Top-level University

IISIA・RIJAG runs "Information Literacy" courses at the University of Tokyo, under the apporoval of the College of Liberal Arts. 15 years of educating bright students in Japan and worldwide, thenumber of graduate total 350.



3 Educational Partnership with Prestigious Foreign Universities

IISIA・RIJAG has exchanged educational partnerships with two prestigious universities in Russia and Vietnam since 2019.

St.Petersburg State University of Economics (UNECON)

One of the leading Russian universities with 90-year experience in educating top professionals in economics and management (cited from UNECON website).

Fulbright School of Public Policy and Management (FSPPM)

Vietnam`s first independent, non-profit university, powered by funding from the U.S. Department of State. The school concept, as a center of public policy research and teaching in Ho Chi Minh City, was created by the Vietnam Program at the Harvard Kennedy School.

2020年度

IISIA / RIJAG
社会貢献事業報告書